

◆◆◆ 2010年4月までの日本の大気中二酸化炭素濃度について

気象庁では、岩手県大船渡市綾里、東京都小笠原村南鳥島、沖縄県八重山郡与那国島の国内3観測地点で、大気中の温室効果ガスの観測を実施しています。

気象庁は5月12日（水）、温室効果ガスのなかでも、地球温暖化に及ぼす影響が最も大きいといわれている二酸化炭素の観測結果について、2009年の年平均大気中二酸化炭素濃度は過去最高となったこと、また、2010年4月の大気中二酸化炭素濃度は観測開始以来の最高値を記録したことを発表しました。

この観測結果は以下のとおりです。

【2009年の年平均値】

綾里：389.7 ppm 南鳥島：388.0 ppm 与那国島：389.4 ppm

それぞれの観測地点で過去最高（速報値）。この10年間では3観測地点の平均で1.9 ppm/年の割合で増加を続けており、国内で最初に長期連続観測を開始した綾里においては、1987年の観測開始時より、38.5 ppm濃度が増加している。

【2010年4月観測値】

綾里：396.8 ppm 南鳥島：393.3 ppm 与那国島：396.2 ppm

3観測地点すべてにおいて観測開始以来の月平均値の最高値を記録（速報値）。

（気象庁ホームページから）